IBARAKI GREENWAVENEWS No.6 TEL072-624-5461
大阪府茨木北部丘陵地域の自然を守る市民会議http://ibaraki-saito.sakura.ne.jp

彩都東部地区馬場断層は要注意

馬場断層の実変位量は１００～１２０㍍

ＵＲ国文都市馬場断層東部地区調査編に記述

「調査報告書」では、「Ｌ－６測線（黄色ポイント）鉛直断面における花崗岩と大阪層群がなす境界断層は平均傾斜４５度以下であり、大阪層群の不整合面の急崖とは考えにくい。したがって、この断面での境界断層の長さが断層の実変位量とほぼ等しいと考えられる。よって境界断層の長さ約１２０㍍が断層の実変位量となる。この断面は断層の一般走向の直交方向と１５度斜交するため、実変位量は小さいはずであるが、馬場断層は右ずれ水平部分を有することも考慮するとＬ－６側線での実変位量は１００～１２０㍍となる」

「馬場断層の運動像は花崗岩と未固結堆積物という全く異なった地質が地表付近で逆断層を形成する関係であり、多様な断層形態から構成される。しかしそこに一貫するものは、大阪層群に残された様々な変形から読み取れるＮＷ方向という断層方向であり、このことは地山強度や地山の安定性を検討する際の重要なポイントになると考えられる」と記述している。